Graduate School of Language Sciences

神田外語大学 大学院
言語科学研究科

博士前期（修士）課程
日本語学専攻

博士後期課程
言語科学専攻

言語教育のスペシャリストを育てる

本大学院では、言語でコミュニケーションを行うとはどのようなことか、母語以外の言語でコミュニケーションを行うことは、母語の場合とどのように異なるのかという根本的な問いに立脚し、 言語教育のあるべき姿について、理論と実践から迫ります。グローバル化が進み、 第二言語 、第三言語の習得の重要性が増している中、新しい時代の多様なニーズを踏まえた言語指導技術や教材の開発も急務になっています。

大学院アドミッションポリシー

言語科学研究科は、建学の理念「言葉は世界をつなぐ平和の礎」に基づき、言語科学の観点から行われる言語研究、言語教育研究、コミュニケーション研究によって、人間理解、国際・異文化交流を促進し、社会と世界の平和と発展に寄与することを教育理念としています。この理念に立ち、人間の知的活動および社会的活動の基礎である言語（主に日本語と英語）と言語教育・言語コミュニケーションに関わる諸科学を理論と実態、理論と実践を結びつけ多角的に考究することを通して、高度な専門知識と卓越した研究能力、広い視野と多様性への理解に基づく総合的思考力と判断力、高い倫理性と強い責任感、地球社会の調和・共存に貢献しうる実践力とコミュニケーション能力を有する人材を育成します。

博士前期課程では、これらの分野の基礎研究に従事する研究者と社会の要請に実践的に応えることのできる高度専門職業人を、博士後期課程では、言語と言語教育に関する諸分野において高度な専門知識と先導的・指導的な役割を担いうる研究者とを必要とする職業を担いうる人材を育成します。そこで、本研究科は以下のような人材を求めています。

本研究科日本語学専攻が求める人材

○日本語の研究と教育を通してグローバル時代の人材育成に貢献したい人。

○グローバル時代に求められる言語のスペシャリストとして、言語についての専門的な知識を身につけたい人。

○最新理論に基づき、言語教育研究、言語習得、日本語の研究を行いたい人。

博士前期（修士）課程（日本語学専攻）

日本語の教育に関する専門的な知識と技能を身につけ、国内外の日本語教育関連分野で専門家として活躍できる人材を育成します。理論面では、日本語の習得と使用にかかわるさまざまな要因を解明し、効果的な言語習得を促す教育のあり方を探求します。実践面では、学習 者のニーズや環境的制約に対応できる創造的な応用力を開発します。また、教育的な観点から日本語の分析、および日本語と他言語の対照分析を行う力を育成します。言葉の深いロジックに基づいた言語分析を通して、より効果的な教育指導に役立つ能力を開発します。

博士後期課程（言語科学専攻）

先導的、指導的役割を果たすことのできる専門家を養成

修士課程で培った言語学、英語学、日本語学、言語教育学、言語コミュニケーションなどの専門分野への興味をさらに深めると共に、より広い視野に立って、言語研究と言語教育の分野で先導的、指導的役割を果たすことのできる専門家を養成します。理論を実証するための実験、良質な資料の収集や分析だけでなく、新しい理論の開拓や応用分野の開発ができるような分析力と創造力を養い、狭い専門分野に閉じこもることなく、総合的、学際的な視野のもとに自らの研究を深めていく研究態度を育てます。

修了要件

博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、次の選択肢のいずれかを満たすことです。

●研究テーマに関連する科目を中心に履修して32単位以上を修得し、かつ、研究した結果を「修士論文」または「修士研究報告」としてまとめて提出し、最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者は大学院に１年以上在学すれば足りうるものとします。

最近の修士論文･博士論文

【修士論文】

日本語教育研究分野：

「漫画を使用したL2作文における意図的推論の効果」「日本語学習者の第二言語コミュニケーション意欲と初話産出の関係」「日本語学習者の推敲作文におけるペアワークの効果」「中級日本語学習者の『断り』における文脈とタスクの影響」「Ｌ２語彙学習におけるタスクタイプと繰り返しの効果」「日本語学習者を対象としたリスニングにおけるプレタスクの効果」「第二言語読解活動における思考プロセス」「L2読解におけるペアワークとタスク指示の効果」

日本語研究分野：

「『完遂』を表す複合動詞の日中対照」「『のだ』と『んだ』ー談話管理論の観点からー」「日英の広告の語用論 ―関連性理論とポライトネスの観点から―」「『テイル』と『着』:日中アスペクト対照研究」「ポライトネスの観点から見た感謝場面における日本語と中国語の言語行動」「日本語の擬音語・擬態語のタイ語への翻訳」「自他動詞の交替可能性と名詞の変化の自発性について」

【博士論文】

「説明文の書き換えが日本語学習者の理解に与える影響―読解の処理レベルにおける簡素化・精緻化の効果 ―」「文の複雑さ、および読み手の統語知識と作動記憶容量が日本語説明文の理解に与える影響」「第二言語読解における語彙推測」「タスクと言語背景が作文の産出過程、および、言語的特徴に与える効果」「タスクの複雑さと種類、および、言語習熟度が発話に与える影響―L2発話の言語的特徴とストラテジーに注目してー」

研究指導教員

博士前期課程・
博士後期課程研究指導教員

堀場 裕紀江 教授

Ph.D.（教育学）
ミネソタ大学1990年

「〇〇語ができる」とはどういうことでしょうか。母語は（少なくとも話す・聞くについては）知らないうちにできるようになっていたでしょう。でも外国語（あるいは第２言語、以下「Ｌ２」）の場合はそういうわけにはいきません。Ｌ２の習得に影響を与える要因にはどんなものがあるでしょうか。Ｌ２習得を促進する学習法・指導法とはどういうものでしょうか。熟達したＬ２学習者はネイティブのような言語知識・能力を持つでしょうか。Ｌ２学習によって一般知識やアイデンティティも変化するでしょうか。こういった問題に関心があり意欲と行動力のある方、大歓迎です。私は第二言語文化教育学と認知心理学・言語心理学を専門とし、英語教育・日本語教育および教員養成に日米で携わってきました。皆さんがこれからの世界と日本における言語教育というものを視野に入れて高度な専門知識と分析力・研究力を身につけられるように、応援したいと考えています。一緒に頑張りましょう。

担当科目

博士前期課程：言語科学演習、応用言語学研究、日本語教育学研究、日本語習得研究、評価法研究Ⅰ/Ⅱ、修士研究
博士後期課程：言語教育学特論演習、言語教育学特殊研究

研究分野・研究テーマ

第二言語文化教育学・第二言語習得研究。主に日本語・英語の習得と運用（読解・作文・発話）における学習者要因（語彙知識、母語背景、ストラテジー、興味・ビリーフなど）、テクスト要因（種類、内容、言語など）タスク要因（種類、指示、構成など）がどう関わるか。

研究指導分野

第二言語文化教育学（指導方法、学習タスク、教材、評価方法、個人差要因）、日本語習得研究（四技能・言語知識）、読解学習研究

主要著作

Reading in a Foreign Language（2015,13）、Discourse Processes（2000）、Modern Language Journal（2012, 1996, 90）、Language Learning（1994, 93）、Studies in Second Language Acquisition（1996, 93）、『日本語学』（2015）、『L２としての日本語の習得研究』（2007, 02）等の主要雑誌の他、Task-based language teaching in foreign language contexts（John Benjamins 2012）、 Handbook of Japanese Psycholinguistics（Cambridge University 2006）、Methods that work II （Heinle & Heinle 1993）、『英文読解のプロセスと指導』（大修館書店 2002） などに論文を掲載。

博士前期課程・
博士後期課程研究指導教員

岩本 遠億 教授

Ph.D.（言語学）
オーストラリア国立大学1993年

日本語と英語、さらに類型的に全く異なるパプア・ニューギニアの言語を研究し、文法形式と意味の関係について理解を深めてきました。現在、言語研究の分野では、文脈による語の意味の修正についての研究が進んでいます。意味修正は、単文レベルから、談話、語用に至る様々なレベルで行われますが、言語間で意味の修正箇所や種類が異なります。そのため、外国語の場合、表面的に単語や文法を覚えただけでは、文の意味がつかめないということがしばしば起こるのです。語彙意味論では、理論的、対照言語学的手法を用い、どのような原理に基づいて意味の修正が行われ、文の意味が決定するのかを明らかにしようとします。ここから得られる知見は、日本語研究にとどまらず、日本語教育や翻訳の分野においても活用できるでしょう。感覚に頼っていた指導や翻訳の落とし穴を発見し、文法的・語彙的論理に裏付けられたものに発展させていく能力を身に付けることが期待できます。

担当科目

博士前期課程：言語科学演習、日本語学概論、日本語学研究（語彙・意味）Ⅰ/Ⅱ、日本語学研究（統語）Ⅰ/Ⅱ、談話語用研究Ⅰ/Ⅱ、修士研究
博士後期課程：言語学特論演習、日本語学特殊研究

研究分野・研究テーマ

言語学（概念意味論）と日本語文法。主に、テンス・アスペクトの類型論、語彙・意味論、対照言語学（日本語・英語・アランブラック語）

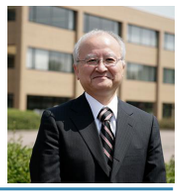
研究指導分野

言語学・日本語学（日本語文法、概念意味論、語彙意味論、語用論）日本語と他の言語の比較対照研究（主に文法、意味、語彙、テンス・アスペクト対照など）、日本語教育文法

主要著作

書籍：『事象アスペクト論』（開拓社 2008）、Linguistics: In Search of the Human Mind（編著 開拓社 1999）など。
論文：「アスペクトと事象構造の変更―結果持続の類型論に向けて―」『語彙意味論の新しい可能性を探って』（開拓社 2015）、「経路移動事象の両義的限界性と増分性」『レキシコン・フォーラム』No.5 （2010）、「日本語とアランブラック語の授益構文」『日本語学』、「シテイルが持つ継続的状態性と結果の意味」『７０年代生成文法再認識』（開拓社 2010）、“Inalienable Possession Constructions in Alamlbak” Linguistics: In Search of the Human Mind, （開拓社 1999）など。

博士前期課程研究指導教員



木川 行央 教授

修士（文学）
東京都立大学1979年

一口に日本語と言っても、方言をはじめ様々なバリエーションがあります。自分が話している日本語はどのような日本語なのか、自分の母方言は東京のことばとどこがどのように異なるのか、自分の話している日本語はどのように位置づけられるのか、それが私の研究の出発点です。方言には色々な研究分野がありますが、私は、言語地理学的研究、特に過去のデータと現在の状況の比較や、談話資料による、音声・アクセント・文法などの研究を行っています。方言は、日本語の歴史を映し、今後の変化の方向性を探るもととなります。言語地理学的研究は、ことばの変遷と今後について考えることを目的としています。私たちが使っていると思っていることばと実際に使っていることばが一致しないということがよくあります。談話資料の分析により、意識ではなく実際のことば観察しています。そして、ここにもことばの変遷と今後の変化を探る糸口があるのではないかと考えています。

担当科目

博士前期課程：日本語学研究（音声・音韻）Ⅰ/Ⅱ、日本語学研究（方言・日本語史）、社会言語学研究Ⅰ/Ⅱ、修士研究

研究分野・研究テーマ

日本語学。特に方言をはじめとする日本語のバリエーションの研究。
現在は言語地理学的研究や自然談話を用いて音声や文法表現を分析している。

研究指導分野

日本語の音声・音韻、方言や若者言葉、性差をはじめとする位相差など日本語のバリエーションに関する研究、社会言語学、日本語教育における言語（音声指導や語彙指導など）

主要著作

論文：「大井川流域における言語変化－３０年前の調査結果との比較から－」『空間と時間の中の方言　―ことばの変化は方言地図にどう現れるか』（朝倉書店　2017）、「静岡県松崎町方言のアクセントにおける「ゆれ」の実態―語アクセント調査と談話資料の観点から―」『音声研究』15-3（2011）、「一人称代名詞としての『自分』」『神田外語大学大学院紀要言語科学研究』17（2011）、「松崎町池代方言における準体助詞と準体法」『神田外語大学大学院紀要言語科学研究』16（2010）など。

科目担当教員

桒原 和生 教授

博士（英語学）

獨協大学1993年

日本語や英語などの言語類型論的に異なる言語の比較研究、とりわけ生成文法に基づく統語論研究を専門とします。これまで、統語論と意味・語用論の接点に関わる現象を中心に研究を行ってきました。日英語における間接疑問縮約、理由を表すwh句、無生物主語構文などを研究対象としてきました。また近年では、生成文法に基づく第二言語習得研究にも取り組んでおり、日本語母語話者による英語の従属節の習得などを研究しています。

研究指導分野：言語学、英語学、日英語比較研究、第二言語習得研究のうち、統語論と意味・語用論の接点、日本語・英語およびその他の言語の比較研究、生成文法に基づく第二言語習得研究に関する研究指導を行います。

担当科目

博士前期課程：日英対照言語研究Ⅰ/Ⅱ、修士研究
博士後期課程：言語学特殊研究

主要著作

著書:『補文構造』（研究社. 2001年 [共著]）、『日本語を活用して学ぶ英文法』（神田外語大学出版局. 2020年 [共著]）。
論文：「補文標識とWh句の共起関係について―理由を表すWh付加詞を中心に」『70年代生成文法再認識：日本語の地平』（開拓社.2010年）、“Peripheral Effects in Japanese Questions and the Fine Structure of CP,” (*Lingua* 126, 2013.)、「英語教育における母語の知識の活用と文法指導」『日本の英語教育の今、そして、これから』（開拓社. 2015年）。辞典等：『オックスフォード言語学辞典』（朝倉書店.2009年）、『ことばの思想家50人―重要人物からみる言語学史』（朝倉書店.2016年）など。

科目担当教員

浜之上 幸 教授　修士（文学）東京外国語大学1990年

私は現代朝鮮語（韓国語）の文法論を主な研究分野としています。その中でも特に、“アスペクト”という文法範疇について研究してきました。現代日本語の「～している」が、動作の進行と動作の結果状態の２つのアスペクト的意味を表しうるのに対し、現代朝鮮語では自動詞か他動詞かによってこの２つのアスペクト的意味を表す形式が異なります。このように、日本語と朝鮮語は非常に似かよった言語でありながらも、微妙な点が異なっています。私の講義においては、日本語と朝鮮語の異同に焦点を当て、そこで得られた知識が日本語教育に生かされることを目標とします。

担当科目　日韓対照言語研究Ⅰ/Ⅱ、言語学特殊研究（博士後期課程）

主要著作

書籍:『朝鮮語の入門･改訂版』（白水社 2007）、『朝鮮語を学ぼう･改訂版』（三修社2015）、『韓国語Ⅰ（'16）』（放送大学教育振興会2016）
論文:「現代朝鮮語動詞のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』138（1991）、「現代朝鮮語における動作の複数性について」『日本語と朝鮮語･下巻』（くろしお出版1997）、「現代朝鮮語の形態論的範疇について」『朝鮮文化研究』5号（1998）他

上原　由美子 教授　修士（文学）　神田外語大学2002年

専門は日本語教育と文法です。日本語の授業において、学習者が文法を使える能力を促進する授業とはどのような授業でしょうか。ただ文法規則を教え、やみくもに練習をさせても使えるようにはなりません。文法がどのように習得されるのかという知見に基づき、学習者にとってより学びやすく、実際の場面での運用に役立つ文法の指導法について一緒に考えましょう。文法そのものに興味がある方も歓迎します。また、日本語教育をめぐる環境は近年大きく変化しています。担当する大学院の授業では、社会の中で日本語教育が果たす役割も考えながら、さまざまな学習者に合わせた教授法やコースデザイン、教材開発、教師教育などについても理解を深めます。

担当科目　日本語教育文法究Ⅰ/Ⅱ、日本語教材法究Ⅰ/Ⅱ

主要著作

書籍：『NIHONGO ACTIVE TALK -The First Japanese Textbook for Beginners-』（共著 アスク出版2014）
論文：「JF日本語教育スタンダードとその活用」『北海道大学国際教育研究センター紀要』22号（2019）、「課題遂行型教材「JFS 読解活動集」の開発と評価」『国際交流基金日本語教育紀要 』17号（2021）共著、「受益性のない事象における『ていただく』について -『～にVしてもらう』構文の機能的分析から-」『70年代生成文法再認識-日本語研究の地平-』開拓社（2011）

ムスタツェア・アレクサンドラ 准教授　Ph.D.（文化学）ブカレスト国立大学 2011年

専門は日本思想史で、特に江戸から明治への移行期に関心を持っています。儒学が近代の哲学・社会・文化とどのように関わってきたかを軸に、西洋の学術的・大衆的想像における「日本」・「武士道」イメージがどのように作られてきたかという問いにも取り組んでいます。最新の業績には、和辻哲郎の倫理哲学、明治期のジャパノロジストFrancis Brinkleyの著作に見られる日本のイメージ、ならびに儒学思想に対する近代日本フェミニストの批判に関する論文があります。また、山川菊栄の著作の英訳や、ルーマニアにおける『Shōgun』受容研究など、翻訳・比較文化的アプローチにも取り組んでいます。日本文学・比較文学研究、翻訳研究、比較文化研究の指導を担当しています。

担当科目　言語文化研究Ⅰ/Ⅱ

主要著作

最新論文：”The Portrait of a Forgotten Meiji-Period Japanologist – Captain Francis Brinkley (1841-1912)” (神田外語大学日本研究所紀要15, 2023), “Thinking about Confucianism and Modernity in the Early Postwar Period – Watsuji Tetsurō’s The History of Ethical Thought in Japan” (O’Dwyer, Shaun (ed), Handbook of Confucian Thought in Modern Japan, 2022); “Bushidō in Early English-Language Japanology – A Comparison between F. Brinkley’s Japan: Its History, Arts, and Literature and B.H. Chamberlain’s Things Japanese” (神田外語大学日本研究所紀要2022）

町田 明広 教授　博士（文学）佛教大学2009年

私の専門は日本近現代史、特に明治維新史ですが、日本に関する文化・思想・政治・経済など、様々な分野に関心を持っています。担当する「日本研究」では、世界から見るとユニークな日本および日本人ですが、そもそも、どのような国家であり国民性なのか、その特異性を主として歴史学の手法からアプローチします。また、その際、常に意識するのはグローバルな視点です。世界との関わりの中で、１５０年前の幕末期から現代に至る日本の近代と現代が、どのように形作られてきたのかを多角的に研究します。なお、本学図書館は黎明期の洋学資料を中心とした神田佐野文庫を所蔵していますが、その一部を生きた教材として使用します。

担当科目　日本研究Ⅰ/Ⅱ

主要著作

書籍：『島津久光＝幕末政治の焦点』（講談社選書メチエ2009年）、『幕末文久期の国家政略と薩摩藩―島津久光と皇政回復』（岩田書院2010年）、『攘夷の幕末史』(講談社現代新書。2010年）、『グローバル幕末史』（草思社2015年）、『西郷隆盛 その伝説と実像』（ＮＨＫ出版2017年）、『薩長同盟論』（人文書院2018年）、『新説 坂本龍馬』（集英社2019年）
論文：「長州藩処分問題と薩摩藩-幕府・越前藩関係を中心に」『神田外語大学日本研究所紀要』(11)（2019）、「慶応元年中央政局における薩摩藩の動向-将軍進発と条約勅許を中心に」『神田外語大学日本研究所紀要』(10)（2018） 他

サンス・リーベラ・アルセニオ 教授　Ph.D.（応用言語学）スペイン国立通信教育大学 2013年

私は、外国語（主にスペイン語）の学習過程における認知要因の役割を研究しております（記憶システム、知覚、注意、モチベーション、言語学習スキル、人の感情、性格など）。学習者にとって学ぶとは（新しい情報を理解した上の活躍）そして教師の立場から教えるという概念（一方的に情報を与えることではなく、学習者の理解ができる範囲で新知識を与え、活用させる）に基本的な枠組みとして様々な側面から研究しております。大学院の授業では、認知言語学とは何かという基本的なことから、簡潔に解り易くアプローチしていきます。外国語を学習する過程で、脳内で起きる変化に注目し、認知言語学の役割と必要性についての理解を深めていきます。

担当科目　日西対照言語研究Ⅰ/Ⅱ

主要著作

書籍：Fundamentos en Linguística Cognitiva. Una introducción a la autoconciencia en el aprendizaje de E.L.E.（Seigan International S.L.出版社-2014）、スペイン語の教科書『¡Acércate!スペイン語に親しむ16講』（朝日出版社 2018）
論文：外国語学習者におけるスペイン語作文の考案、（清泉女子大学人文研、紀要、2007）E/LE con estudiantes discapacitados.（目の不自由がある学習者のスペイン語教授法（成蹊大学文学部、紀要、2013）La autoconciencia en el aprendizaje de una lengua extranjera. Un acercamiento a los conceptos de atención, comprensión y memoria.（上智大学、日本イスパニヤ 学会 No.59、2013）

小中原 麻友 准教授　博士（学術）早稲田大学 2015年

専門は会話分析、語用論、社会言語学、応用言語学です。主に、共通語としての英語（ELF）の視点から、多言語話者同士の英語コミュニケーションを、マルチモーダル会話分析を含む会話分析の手法を用いて研究しています。また、ナラティブ分析を用いて、ELFについて学んだ学生の言語態度や英語観の変化についても調査しています。これまでには、異文化間・第二言語語用論の観点から、日本語と英語の依頼表現の比較研究や教材分析にも取り組んできました。講義では、これらの知見をもとに、第二言語としての日本語によるコミュニケーションを分析・考察する方法を学ぶとともに、社会言語学的視点から日本語教育について考えます。

担当科目　異文化コミュニケーション研究Ⅰ/Ⅱ

主要著作

書籍： Conflict Talk in English as a Lingua Franca: Analyzing Multimodal Resources in Casual ELF Conversations (De Gruyter Mouton, 単著, 2023)、English as a Lingua Franca in Japan: Towards Multilingual Practices (Palgrave, 共編, 2020)。論文：Single case analyses of two overlap sequences in casual ELF conversations from a multimodal perspective: Toward the consideration of mutual benefits of ELF and CA. Journal of Pragmatics 170. 301-316 (2020).

釜田 友里江 准教授　博士（文学）名古屋大学 2017年

専門は社会言語学、日本語教育です。外国人就労者の支援に携わっています。現在、日本語を学習する人たちの背景やニーズが多様化しています。そのため、ことばを教えるだけでなく、日本社会の動向や変化に合わせながら授業をデザインしていく必要性がさらに高まっています。日本語教育実習では、皆さんがもっている学習観や教授観を大切にしながら、学習者の背景や社会の情勢に合わせた授業の組み立て方を学んでいきます。また、日本語教師が学習者と伴走していけるような授業について、日本語教育実習を通して一緒に考えていきましょう。

担当科目　日本語教育実習

主要著作

書籍：会話における自慢・愚痴・自己卑下と共感についての研究　－共感が対人関係構築に果たす役割－』（くろしお出版2024）『おはよう21』「特集外国人職員との円滑なコミュニケーション」（中央法規2026）
論文：「介護老人福祉施設の入居者の愚痴に対する共感的な反応 －入居者を取り巻く環境に関する愚痴に着目して－」『Human Linguistics』9号（2025）、「介護施設の利用者と関係を構築するためのコミュニケーションストラテジー －利用者と外国人介護職員の会話に着目して－」『日本生活支援学会』11号（2025）

専門性を活かした進路

本学大学院は1992年に設置されて以来、200名以上が修士号を、16名が博士号を取得しました。修了者は、国内外の大学や日本語学校などの教育研究機関で、研究者としてまた、教員として活躍しています。本大学院の修了者には、神田外語大学の国際協定校での日本語教育の道も開かれています。さらに一般企業で専門性を活かして活躍する人も多くいます。

授業科目一覧

共通科目群

●言語科学演習　●修士研究　●統計処理法　●日本語アカデミックライティング、日本語学術論文作成技術（留学生用）

言語研究科目群

●日本語学概論　●日本語学研究（音声･音韻）Ⅰ/Ⅱ　●日本語学研究（統語）Ⅰ/Ⅱ　●日本語学研究（語彙･意味）Ⅰ/Ⅱ
●日本語学研究（方言･日本語史）● 日英対照言語研究Ⅰ/Ⅱ　●日中対照言語研究Ⅰ/Ⅱ　●日韓対照言語研究Ⅰ/Ⅱ　●日西対照言語研究Ⅰ/Ⅱ

言語教育研究科目群

●応用言語学研究　●日本語習得研究　●評価法研究Ⅰ/Ⅱ　●日本語教育学研究　●日本語教育文法研究Ⅰ/Ⅱ　●日本語教育教材研究Ⅰ/Ⅱ　●日本語教育実習

コミュニケーション言語文化研究科目群

●異文化コミュニケーション研究Ⅰ/Ⅱ　●日本研究Ⅰ/Ⅱ　●言語文化研究Ⅰ/Ⅱ　●比較文化論　●談話語用研究Ⅰ/Ⅱ　●社会言語学研究Ⅰ/Ⅱ

大学院シラバスはホームページから検索できます。https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/

日本語教育教員養成プログラム修了証

日本語教育教員養成プログラム修了証は、社会･文化･地域に関わる領域、教育に関わる領域、言語に関わる各領域から、指定された必修科目と選択必修科目を含む合計２８単位以上修得する条件を満たした者に与えられます。

科目等履修生と研究生

科目等履修生とは、修士課程に在籍せずに、科目だけの履修により単位の修得ができる制度です。正規の学生と一緒に受講し同等に評価されます。また、修士号をすでに取得している人で、特定の研究課題について研究指導を受けたい人には、研究生の制度があります。

ティーチング・アシスタント制度

教員が担当する学部または大学院修士課程の学生に対する講義、実習、演習、試験等での教育補助業務を行い、この経験を通して、将来の研究者、指導者としての素質を養うことを目的としています。

入学希望の方へ

願書および入試概要

博士前期（修士）課程の入学試験は、１０月（Ⅰ期入試）と１月（Ⅱ期入試）と2月（Ⅲ期入試）の３回行います。博士後期課程の入試は１回です。詳細は大学院ホームページ（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/graduate/applicant/）をご覧ください。

過去問題入手方法

過去問題は、ダイジェスト版として、ホームページにおいてPDF で見ることができます。

学費

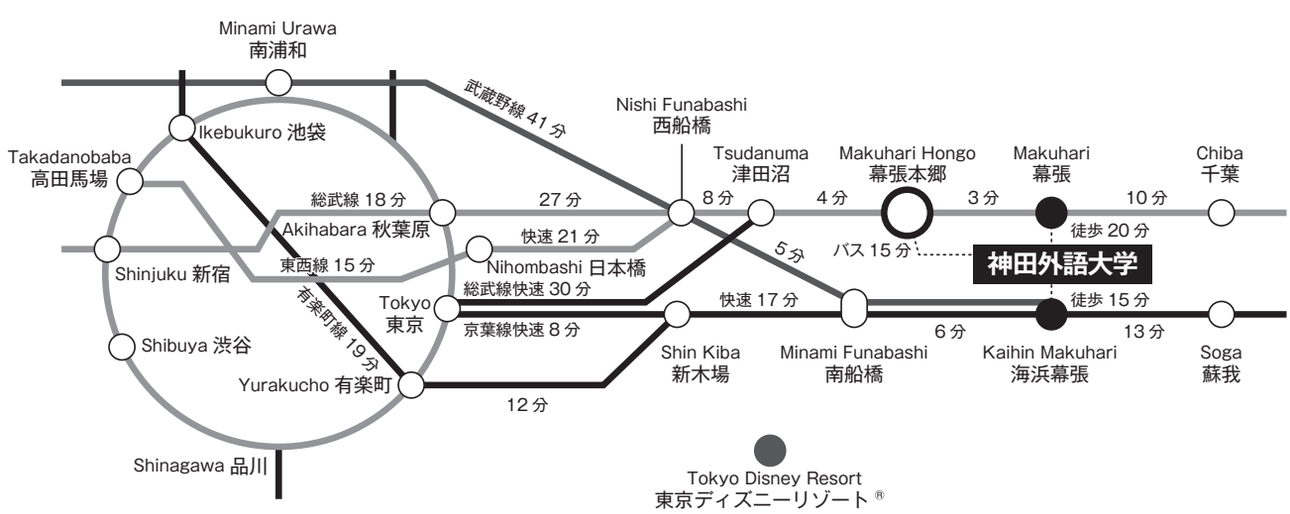
●1,370,000 円（入学金 250,000 円／授業料 890,000 円／教育充実費費 230,000 円）※２年目学費は入学金をのぞいた 1,120,000 円

留学生対象 給付型奨学金

ロータリー米山奨学金、小貫奨学金、平和中島財団奨学金

〈主な交通機関と所要時間の目安〉

●JR京葉線「海浜幕張駅」徒歩約15分／京成バス約5分（幕22／3番のりば）神田外語大学下車
●JR総武線「幕張駅」徒歩約20分
●京成電鉄「京成幕張駅」徒歩約15分
●JR総武線「幕張本郷駅」／京成電鉄「京成幕張本郷駅」
京成バス約8分（幕22*･幕23／6番のりば）神田外語大学下車
*幕22は、時刻表に「◎または大学」と記載のある時間のみ神田外語大学に停車。



神田外語大学大学院

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1
TEL：043-273-1320（Office Hours：月～金 09:00 ～ 17:30）
e-mail：infograd-kuis@ml.kandagaigo.ac.jp
https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/graduate/